

敦賀発電所1号機の実力低下について (原子炉給水ポンプの点検)

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 35万7千kW）は定格熱出力一定運転中のところ、平成20年8月中旬から、原子炉給水ポンプ（全3台中2台運転）※¹のうち、運転中のA号機のメカニカルシール部付近から通常値（10cc/分未満）を上回る漏れが認められました。このため、監視を強化していましたが増加傾向が続いているため、同ポンプを停止して当該部の点検を行うこととし、本日13時31分に待機状態にあったC号機を起動した後、14時07分にA号機を停止し、現在は定格熱出力一定運転を継続しています。

このポンプ切替操作に伴う現場点検において、今回起動したC号機の補助油ポンプ※²のメカニカルシール部から、潤滑油の漏えい（約40cc/分）が確認されました。

今回の潤滑油の漏えいは、C号機の運転に直ちに影響を与えるものではありませんが、同油ポンプの点検・修理を行うためには、C号機を停止する必要があることから、本日18時より出力低下を開始し、出力約50%の状態とした上で同油ポンプの点検・修理を行う予定です。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

添付資料：原子炉給水ポンプ系統概要図

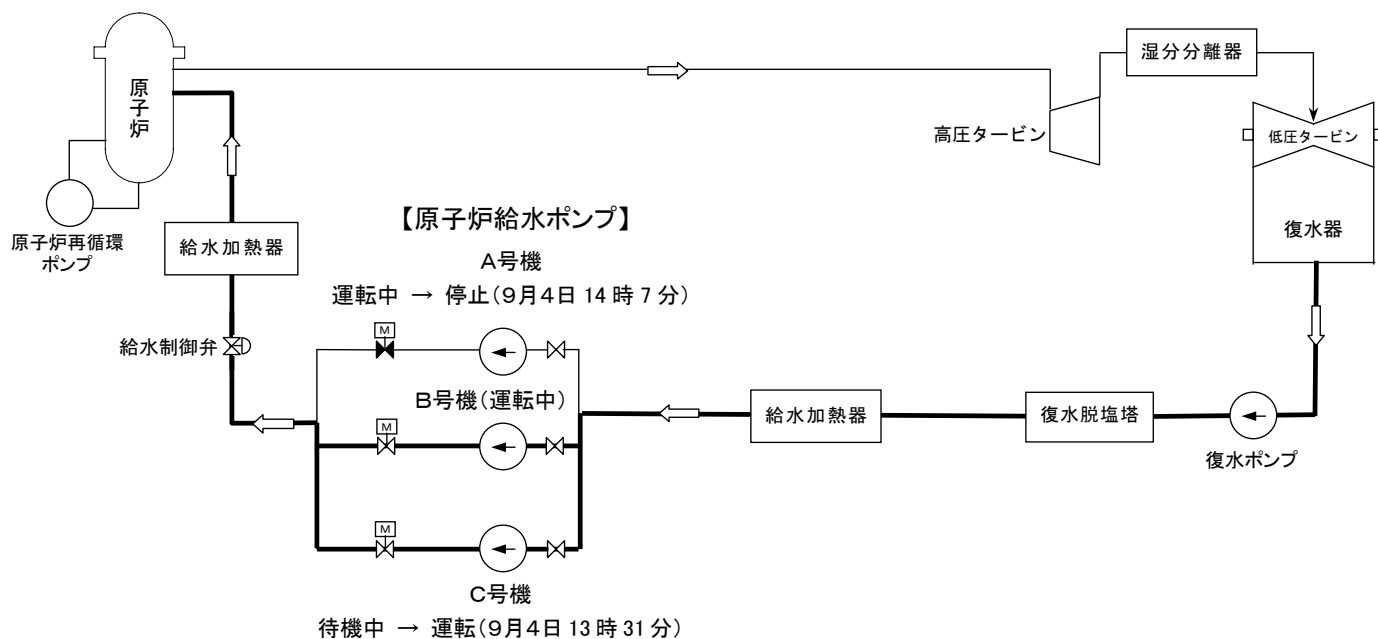
※1 原子炉給水ポンプ

原子炉への冷却水を供給するポンプで、3台（A、B、C）ある。運転中は2台が運転、1台が待機している。

※2 補助油ポンプ

原子炉給水ポンプが待機中に軸受けに潤滑油を供給するために運転しているポンプで、原子炉給水ポンプ運転中は停止している。

原子炉給水ポンプ系統概要図



原子炉給水ポンプ潤滑油等系統図

